

令和6年度「市長と語り合う会」について（美濃地区）

1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
令和6年 10月7日（月）	美濃公民館	19:00～20:00	13	7	20

○ 市側出席者

市長、副市長、政策企画局長、総務部長、福祉環境部長、産業経済部長、建設部長、秘書課長

2 会の概要

○ 開 会（秘書課長）

- ・ 会の趣旨説明
- ・ 出席者紹介

○ あいさつと市政方針の説明（山本市長）

〔現状（課題）〕

・ 地震を始めとする自然災害の脅威と防災対策の重要性

今年の元日に能登半島で大きな地震があったが、地能登半島が、この益田市と地理的にも社会的にも状況が似ていることから他人事ではないと感じている。例えば、人口減少とか、少子化高齢化、または交通の便もあまりよくない状況も共通していると考えており、現在の能登半島地震の状況をよく研究し、もし益田市で起こった場合に、しっかりと対応できるようにしていきたいと思っている。今月の27日に、島根県総合防災訓練が益田市で開催され、大地震を想定した模擬練習をすることになっているので、この訓練を生かしていきたいと思っている。

・ 地球全体の気温上昇は容赦なく進行しており、脱炭素社会への移行はまさに焦眉の急

今年の夏も去年に輪をかけて暑い夏となり、2年連続して夏の暑さを記録更新している。この地球温暖化は、温室効果ガスという地球の温度を高くする気体、特に二酸化炭素が増えている事、産業革命以降、二酸化炭素を排出する人間の暮らし方や生産の在り方が、根本の原因であるとされているので、二酸化炭素を出さない生活に変えていかないといけないと考えている。

・ 人口減少と高齢化が加速し、中山間地域における活力維持が日を追うごとに困難となりつつある

益田市の状況を見ると、人口減少と高齢化が加速している。中山間地域における生活機能、活力の維持がだんだんと困難となっており大きな課題である。

・ 萩・石見空港も大きな岐路

首都東京と1時間半で往復できる萩・石見空港は、この地域にとって大きな希望である。東京羽田空港への路線は、1日2往復あるが、この2往復が続いているのは、羽田発着枠政策コンテストという国の政策によって、通常1往復プラスその政策枠の1往復で2往復が確保されている。政策枠を確保するためにも利用拡大を進めていかなければならない。大阪線については、夏の間の季節限定運航となっているが、90%以上の利用実績を残さないことには、令和7年の大阪線はもう無いかもしれないという状況であり、空港利用について今年は正念場に位置づけていた。

〔重点方針〕

・ 災害対策の強化

益田市が、毎年のように直面している豪雨災害や洪水の災害に加え、万が一起きるかもしれない大地震災害にもしっかりと備えていく考えである。大雨等については、気象予報により、いつ頃雨が降るか等想定がつき準備もしやすいが、地震はまだ予知ができない。益田市でもいつ何どき大地震が起きるかもしれないので、そういった災害に備えたいと考えている。

・地球温暖化への対応

地球温暖化への対応としては、原因となっている二酸化炭素を減らす生活にしていこうという事である。益田市ではこれまで、施設の照明を従来の蛍光灯からLEDに切り替えたり、施設の屋根に太陽光発電装置の設置を進めてきた。市の公用車についても、少しずつ消費電力が少ない車に変えており、これからもなるべく環境に優しい車に変えていく計画である。

・中山間地域振興と交通維持

これから人口減少について、何とか食い止めたいと思っているが、どうしても限度がある。そうすると、中山間地域をどう維持していくのかということが非常に重要であり、また、地域での生活のためには、地域公共交通をどう維持するかということも大変重要である。一方で、地域公共交通を走らせるためには、運転士さんが必要であるが、運転士さんも人口減少等により確保が非常に難しくなっているので、持続可能な交通体系というものを考えていきたい。

・自治体DXの推進

DXとは、これまで人間の力で行っていた事務を、なるべくコンピューターやAI等の機械に置き換えて進めていこうというものである。益田市では新しい取組を進めてきており、例えば、住民の方が亡くなられたとき、遺族の方の手続きを基本的に1か所で手続ができるように、昨年から変えたところである。また、いろんな申請書に手書きで書いていただいていたのを、職員が聞き取って書類を発行するというように変えてきている。住民の皆さんにとって便利なやり方を、今後さらに広げていきたいと考えている。また、この新しい仕事の進め方をするためには、職員の意識改革が必要であり、市民の方の利便性の向上のため自ら考える、そういう職員づくりを行っていききたいと考えている。

・益田市型中高一貫教育の推進

これまでも益田市は、保育園や幼稚園、そして小学校、中学校、高校とふるさと教育に取り組んできた。子供たちが益田で生まれて育って、地域愛着を持ち、できれば将来も益田市で活躍してもらえよう教育を進めてきた。中高一貫教育については、それとプラスして、中学校と高校の6年間をなるべく一貫した流れで進めていこうというものである。特に、今、益田市の私立高校に委託をして、中学生の補習事業を行うという取組を行っており、今後は、もっと中学校と高校の連絡を密にして推進し、高校卒業後の進路選択の充実のためにも、学力を重視した教育を進めていきたいと考えている。

1点お知らせであるが、今年益田市では、11月の16、17日に全国山城サミット益田大会を開催する。初日はグラントワでシンポジウム、2日目は、主に旧益田地区の中世を味わっていただけるいろんな催物を開催する。全国の山城ファンの方にも来ていただくが、益田市民の方にも、益田に対する思い入れやプライドを持ってもらうような機会にしたいと思っているので参加していただきたい。

○ 意見交換

質問項目は以下のとおり。詳細は別紙のとおり。

- ① 土砂災害の避難所について
- ② 市道の管理について
- ③ 地域自治組織について
- ④ 消防団の体制について
- ⑤ 中山間地域振興基本計画について
- ⑥ 公民館のあり方について
- ⑦ 公民館、地域自治組織等の活動について
- ⑧ 選挙掲示板について
- ⑨ お悔やみワンストップについて
- ⑩ 県道の整備について

○ 閉 会 （秘書課長）

令和 6 年度「市長と語り合う会」

〔会場 美濃公民館 開催日時：令和 6 年 1 0 月 7 日（月）19:00～20:00〕

要 望 事 項 等	回 答
①-1 土砂災害の避難所について 当地区の土砂災害の時の避難場所は、中西公民館になっている。美濃公民館が避難所や拠点として活用できるよう対策を検討してもらいたい。	①-1 以前ここにあった美濃小学校については、裏山の崩落の危険性があるためイエローゾーンに指定されていたが、今の新しい調査では、公民館施設そのものは、土砂の崩落の危険性は少ないということで、土砂災害の時の避難所になっている。
①-2 土砂災害の避難所について 今年か昨年かわからないが、大雨が降った際、中西公民館へ避難の放送があった。美濃公民館の出入口にも、土砂災害の際は避難所として使えないという看板が、新築当初から張り出している。イエローゾーンの指定解除のため、防護壁を作る等拠点として使用できるよう研究してほしい。	①-2 美濃地区内で非難ができるよう研究していきたい。また、最新の状況を調査し後日報告したい。
② 市道の管理について 地区内の市道において、側面から木が張り出し軽トラの天井に当たるくらいになっている。以前は山の持ち主の責任だったが、法律が変わり道路の管理者が処理することが可能になったと思う。緊急車両にも影響があるので市で対応できないか。	② 道路の通行に危険が及ぶ場合においては、道路管理者で対応が可能なので、現地を確認し対応を検討したい
③ 地域自治組織について 地域自治組織は、60 代後半から 70 代前半の方が中心となり活動しているが、その後の後継者がいないことにどの地区も苦慮している。今後、継続できない地区が出た場合、市としてどういう方向性を考えているのか。 また、それに付随し応援隊員、地域マネージャーがいるが、余り評判は良くない。もういなくてもいいというようなところもあり、そうなると、市として無駄金を使っているのではないかと思う。今後の方向性として、今の地域自治組織に関係する地域マネージャーや応援隊について、どのように考えているか。	③ 地域自治組織または行政組織の担い手については、簡単に解決できる問題ではないと思っている。益田市においては日本全体で若い担い手が減り、獲得競争のような状況になっている。若い者が、地域の担い手になろうと思ってもらえるような地域の魅力をどう作り、どう PR し知ってもらおうかということが、今まで以上に大事になっていると思っている。住民の皆さんと行政が一緒になって頑張っていきたいと思っている。
④ 消防団の体制について 火災があった時、市内から緊急車両でも 30 分くらいはかかる。消防団の団員数も減ってきている中で、今後、緊急車両が 20 分以上かかる地区については、隣の分団など複数分団員の要請が可能となるようにしてほしい。	④ 消防団員の確保も重要な課題である。また、言われたように、近隣の消防団も招集する等検討が必要だと思っている。関係機関と協議し消防団を有効に活用していくよう検討したい。
⑤ 中山間地域振興基本計画について 中山間地域振興基本計画の中で、自治会、公民館、地域自治組織の認識はどんなものなのか。公民館が果たす役割が大きいと思うが、教えてほしい。それと、11日に丸山知事が来られるようなので、美濃の現状も話してほしい。	⑤ 中山間地域振興基本計画は、今計画づくりを進めているところで、令和 7 年度の秋までには策定したいと考えている。その基本計画の中で、公民館、地域自治組織、自治会の関係について、全 20 地区に共通するような関係を決めるのか、それぞれの特色や地域の歴史、経緯を考慮して幾つかのパターンを想定するの

⑥ 公民館のあり方について

地域づくりの核は、やはり公民館。いかに地域を輝かすことができるかは、公民館のあり方にかかっていると思う。職員をはじめ地域全体が同じ方向に向かうようにするためには、市の担当者が定期的に巡回し、現場の声を聞きながら指導や事例等情報提供を行い、地域もそれにこたえるような動きをしていくという循環を作っていたら、想像した以上に収穫があるのではないかなと思う。そうして、地域を輝かす道、方向性、体制を整えていただけたら、もっと公民館が変わってくる。今、自治組織も停滞している状況であるが、美濃もまだまだ大丈夫だと私は信じている。

⑦ 公民館、自治組織等の活動について

自治組織の発足当時は、すごく盛り上がっていた。応援隊の人が上手に行い、私らも乗せられ頑張って美濃地を宣伝しようと思い、クラウドファンディングでひまわりを植え、県外から人を呼び込んだりしていた。応援隊の方により、この地区が盛り上がるか疲弊するか雲泥の差である。教育することが大事であるが、公民館長、自治組織、職員等人事を決められる時、もう少し考えてやっていただきたい。

⑧ 選挙掲示板について

選挙の際の掲示板が、非常に多いような気がする。山間部では、誰も見ないようなところに看板があったり、市内では、さっきもあったというような感じになる。これにも経費が掛かっていると思うので、数を減らすよう見直しをお願いします。

⑨ お悔やみワンストップについて

昨年、お悔やみのワンストップを利用したが、とてもいいシステムと思う。案内等もして

か、二つの考え方があるが、まだ決まっていない。いずれにしても、この計画が、これからの益田市の中山間をどうしていくかという大きな計画なので、皆様の声も伺いよりよい計画づくりをしていきたいと考えている。

また、県知事とはいろいろとお会いする機会があるので、美濃地区を含めた市の状況を知っていただき、支援をいただきたいと考えている。

⑥ 今、年に1回やっているのが地域づくりフォーラムというもので、幾つかの地区の事例をお互い紹介し合い、学び合う機会を設けており、こういった機会へどんどん参加して頂き利用して頂きたい。それ以外にも、他の地域の成功事例等の状況を知ってもらえるような機会を作っていけないか検討したい。地域自治組織についても、行政としてどういうお手伝いをすべきなのか大きな課題だと思っている。先ほど言った中山間地域振興基本計画でどう書き込んでいくか、またそれ以外にも、地域自治組織に対する支援は重要だと考えている。市では、中間支援組織であるユタラボに、地域の活動に対する支援を委託しており、こうした、組織を活用して頂くことも検討していただきたい。

⑦ 同じ1人の人員であっても、その人の能力やエネルギーによって大きな違い出てくるのは理解している。我々も、出来るだけやる気もあり能力もある、そういう人を確保し、地域のサポートをしてもらうようにしていきたいが、そういう人が十分に確保できないのが現状であるので、そのあとのフォローや教育等により、地域にとって戦力になる職員または担い手の確保を進めていかないといけないと思っている。しっかりと努力したい。

⑧ 選挙は、住民の方々の考えが政治に反映されるための貴重な機会であるので、まず候補者を知る機会の確保が大前提としてあり、それがたくさんのポスターを立てる理由である。一方で、財政的にも決して楽ではないので、効率的なポスターの掲示が必要である。インターネットも発達する中、少ない費用で、知る権利を保障することは永遠の課題だと思う。これについては、市とは独立した組織である選挙管理委員会で検討することになるので、意見交換しながら、よりよい選挙の在り方を模索していきたい。

⑨ ありがとうございます。

もらい便利に活用させていただいた。

⑩ 県道の整備について

災害時の避難経路を考えた時、道路整備が遅れていると感じる。県道ではあるが、高齢者が増え、緊急自動車の走行に支障があるようでは人命にも影響するので、県への働きかけをより一層お願いしたい。

⑩ 美濃地区の場合、特に県道美濃地横田停車場線は、市内に通じる大きな幹線道路であり、毎年県へ具体的な名称を挙げ要望しているところである。少しでも早く全線改良が完了するように、今後も引き続き要望していきたい。